

IV. 普及・公開活動の記録

埋蔵文化財展

埋蔵文化財展

愛知県埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査により発見された資料を広く公開するとともに、講座や体験プログラムなどの企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした埋蔵文化財展を行なっている。

令和7年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、「春の特別公開 2025」と新出土品展「やとみ新発見展」2025」、常設展示のリニューアル「あいち発掘銘泉展」を行なった。また、秋には「秋の特別公開 2025」に併せて「身近になった遺跡（IGアリーナ） 名城公園遺跡の土器」として報告書整理作業中の資料の一部を公開した。

春の埋蔵文化財展

1. 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
2. 会期：令和7年3月29日（土）～4月11日（金）
3. 開催趣旨

「やとみ新発見展」（しんはっけんでん）2025」と題して前年度の発掘調査成果を中心に展示し、同時に常設展示のリニューアル「あいち発掘銘泉展」展示解説を実施した。入館無料。

4. 内容

「やとみ新発見展」2025

2階収蔵庫Cにて、令和6年度に発掘調査を実施した13遺跡（一色天神遺跡、辻惣山遺跡、清洲城下町遺跡、西二葉町遺跡、青山神明遺跡・青山金剛遺跡、多気中町東遺跡、寄島遺跡、姫下遺跡、中狭間遺跡、野添遺跡・萱野遺跡、ハラビ平遺跡）の出土遺物や写真パネル等を展示した。保存処理を終えた豊川市花の木古墳群出土の蛇行剣と鉄製品の展示を期間限定で行い、特に注目を集める資料となった。期間中の入場者数は326名。

「埋文桜ニュース 2025」

配布資料として埋文桜ニュースを発行し、遺跡の概要説明と本年度イベント案内および愛知県埋蔵文化財調査センター春の特別公開の展示解説を掲載した。期間中の配布部数は254部。（武部真木）



「やとみ新発見展」2025」チラシ



「あいち発掘銘泉展」チラシ



埋文桜ニュース

朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2025」

愛知県県民文化局文化財室からの受託事業として、清須市のあいち朝日遺跡ミュージアムにおいて、企画展「あいちの発掘調査2025」を開催した。

本展では、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品と調査成果のパネルを展示した。今回は、森後町遺跡（名古屋市熱田区）、青塚古墳（幸田町）、エベス塚古墳（西尾市）、青山神明遺跡・青山金剛遺跡（豊山町）、西二葉町遺跡（名古屋市東区）、史跡小牧山の7遺跡を紹介した。また、朝日遺跡からは、佐久島に所在するエベス塚古墳に関連して、海に関わる漁労具の優品を展示した。関連講演会においても『海の考古学』と題して、シンポジウムのほか、研究発表を行った。印刷物としては、ポスター・チラシ・パンフレットの企画・編集とガイドブックの作成を行った。

企画展 あいち朝日遺跡ミュージアム
あいちの発掘調査 2025

2026
1/17(土) 3/18(日)

【関連講演会等】※応募詳細は裏面に記載してあります。

2月7日	「海の考古学—伊勢湾・三河湾岸をめぐるとる新たな発見—」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：あいち朝日遺跡ミュージアム 定員：200名 入場料：280円
2月21日	「発掘調査のやり方教えます—旧石器時代編—」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：あいち朝日遺跡ミュージアム 定員：200名 入場料：250円
3月18日	発掘調査最新成果報告会「弥生集落と古墳」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：あいち朝日遺跡ミュージアム 定員：200名 入場料：50円
3月8日	発掘調査最新成果報告会「古代以降の集落・城・屋敷・学校」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：あいち朝日遺跡ミュージアム 定員：200名 入場料：50円

あいち朝日遺跡ミュージアム
〒452-0932 愛知県清須市朝日段1番地1 電話 TEL.052-409-1467
※休館日：毎月第1日（祝祭日の場合は、翌日0日休館）※11月4日（土）休館
※11月11日（日）休館
※11月18日（日）休館
※11月25日（日）休館

あいち朝日遺跡ミュージアム
https://aichi-asahi.jp/

「あいちの発掘調査2025」チラシ

企画展
あいちの発掘調査
2025

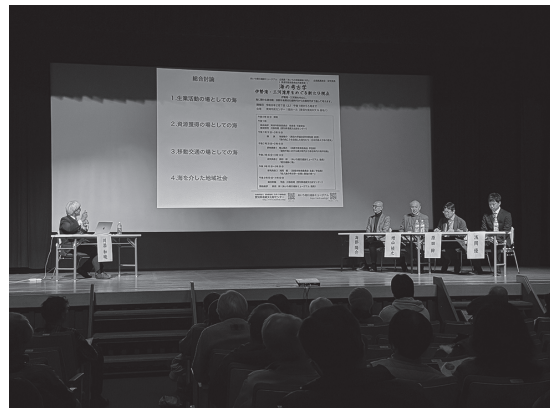
あいち朝日遺跡ミュージアム
〒452-0932 愛知県清須市朝日段1番地1 電話 TEL.052-409-1467
※休館日：毎月第1日（祝祭日の場合は、翌日0日休館）※11月4日（土）休館
※11月11日（日）休館
※11月18日（日）休館
※11月25日（日）休館

あいち朝日遺跡ミュージアム
https://aichi-asahi.jp/

「あいちの発掘調査2025」ガイドブック表紙



企画展示室の展示状況



講演会の開催状況

1 企画展

(1) 会期 令和8年1月17日(土)から3月8日(日)まで

休館日：毎週月曜日(※2月23日(月・振替休日)は開館、翌24日(火)は休館)

(2) 開館時間 9:30～17:00

(3) 会場 あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(企画展示室)

2 関連講演会

(1) 関連講演会「海の考古学」

① 日時：令和8年2月7日(土) 13:00～17:00

② 場所：清洲市民センター1階(ホール)

③ 講師：海部陽介氏(東京大学総合研究博物館 教授)

講演「海の向こうを目指した祖先たち：日本列島4万年の歴史」

増山禎之氏(田原市教育委員会 学芸員)

研究発表1「渥美半島における縄文時代から弥生時代の海上交通」

原田幹氏(あいち朝日遺跡ミュージアム 館長)

研究発表2「朝日遺跡と海」

浅岡優氏(西尾市教育委員会 主査/学芸員)

研究発表3「佐久島の考古学—古墳と製塩の島—」

④ 参加費：無料

⑤ 当日参加人数：154人

(2) 発掘調査最新成果報告会I「弥生集落と古墳」

① 日時：令和8年3月1日(日) 13:30～15:30

② あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(研修室)

③ 講師：大岡由紀子氏(名古屋市教育委員会)「森後町遺跡」

稲垣彩乃氏(幸田町教育委員会)「青塚古墳」

浅岡優氏(西尾市教育委員会)「エバス塚古墳」

④ 参加費：無料

⑤ 当日参加人数：49人

(3) 発掘調査最新成果報告会II「古代以降の集落・城・屋敷・学校」

① 日時：令和8年3月7日(土) 13:30～15:30

② あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(研修室)

③ 講師：鈴木正貴(愛知県埋蔵文化財センター)「青山神明遺跡・青山金剛遺跡」

田中芳樹氏(小牧市教育委員会)「史跡小牧山」

川添暁(愛知県埋蔵文化財センター)「西二葉町遺跡」

④ 参加費：無料

⑤ 当日参加人数：44人

あいち朝日遺跡ミュージアム 企画展「あいちの発掘調査2025」 企画展講演会・研究発表
(清須市教育委員会共催事業)

海の考古学

伊勢湾・三河湾をめぐる新たな視点
伊勢湾・三河湾を中心に、海に関わる諸活動・役割を後期旧石器時代から古墳時代まで通して考えます。

開催日 令和8年2月7日(土) 午後1時から5時まで
会場 清洲市民センター1階ホール(清須市清洲弁天96番地1)

午後0時30分	開場
午後1時	開会挨拶 清須市教育委員会 教育長 天笠幸治 趣意説明 川添和暁(愛知県埋蔵文化財センター)
午後1時10分～2時10分	講演 海部陽介(東京大学総合研究博物館 教授) 「海の向こうを目指した祖先たち：日本列島4万年の歴史」
午後2時20分～2時45分	研究発表1 増山禎之(田原市教育委員会 学芸員) 「渥美半島における縄文時代から弥生時代の海洋活動」
午後2時45分～3時10分	研究発表2 原田幹(あいち朝日遺跡ミュージアム 館長) 「朝日遺跡と海」
午後3時10分～3時35分	研究発表3 浅岡優(西尾市教育委員会 主査/学芸員) 「佐久島の考古学—古墳と製塩の島—」
午後3時50分～4時50分	総合討論 司会 川添和暁(愛知県埋蔵文化財センター) 閉会挨拶 原田幹(あいち朝日遺跡ミュージアム 館長)

公益財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県埋蔵文化財センター
http://www.maijin.com/

あいち朝日遺跡ミュージアム
https://aichi.asahi.jp/

関連講演会「海の考古学」資料

(樋上 昇)

連続歴史講座

目的：最新の発掘調査成果や、考古学研究の最前線を広く一般県民に公開するため。参加費は無料。

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階 研修室(第1回・第2回)

安城市民ギャラリー創作実習室(第3回・第4回) (安城市埋蔵文化財センターと共催)

日時：第1回 4月24日(木)、第2回 6月19日(木)、第3回 10月30日(木)、第4回 11月20日(木)

各回午前10時30分から正午まで

	タイトル	講師	参加人数
第1回	身分を示す木製品 ～華麗なる威儀具の世界～	樋上 昇	33名
第2回	社会の役割が見える骨角器 ～さまざまな骨角製装身具類の世界～	川添和暁	24名
第3回	亀塚遺跡の竪櫛とその時代 ～弥生と古墳のはざま～	河嶋優輝	27名
第4回	色彩でひもとく弥生のアクセサリ 管玉・勾玉の魅力/山陰地方を中心に	茶谷 満	16名

本年度の連続歴史講座は「よそおいの考古学」というテーマで実施した。本講座はこれまで弥富市の愛知県埋蔵文化財調査センター（以下センター）で開催してきたが、会場が愛知県西端部となるため、三河地域の県民には参加しづらいことが懸念されていた。

そのため、今年度は第1回・第2回を例年通りセンターでの開催とし、第3回・第4回は安城市での開催とした。その際は安城市埋蔵文化財センターとの共催として、安城市民ギャラリー創作実習室で開催した。

安城市での開催時はアンケートでも初参加という回答が多く、センター以外での開催は、広く一般県民に公開するという当講座の目的を達するに有効な施策だったといえる。（河嶋優輝）



講座の様子（安城市民ギャラリー創作実習室にて）

歴史講座『よそおいの考古学』 全4回
※参加無料・予約不要 ※各回ごとにお申し込みください。

最新の発掘調査成果や、考古学研究の最前線をご紹介する歴史講座です。
今年度のテーマは「よそおいの考古学」。
毎年安城市の埋蔵文化財センター、安城市民ギャラリー、2つの会場で開催します。
考古学に興味のある方、「よそおい」

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

歴史講座 第1回 4月24日(木)

身分を示す木製品
～華麗なる威儀具の世界～

講師：樋上 昇

「威儀具(いぎ)」とは、王や貴族が身に華やかさを演出し、その威風凛々たる姿を誇示するもので、王や貴族の権威が時代によって変わって来たと考えられています。

歴史講座 第2回 6月19日(木)

社会の役割が見える骨角器
～さまざまな骨角製装身具の世界～

講師：川添 和暁

暮らしを支えてきた動物性素材の骨角器から、その時代を垣間見ます。骨角器の歴史をたどります。

歴史講座 第3回 10月30日(木)午前10時30分から正午まで

亀塚遺跡の竪櫛とその時代
～弥生と古墳のはざま～

講師：河嶋 優輝

一枚の遺物で出た、赤く染められた竪櫛。歴史を語る重要な遺物です。その時代の様子や、出た土壌の様子を詳しく見ていきます。

歴史講座 第4回 11月20日(木)午前10時30分から正午まで

色彩でひもとく弥生のアクセサリ
管玉・勾玉の魅力/山陰地方を中心に

講師：茶谷 満

弥生時代のアクセサリである「管玉」「勾玉」の魅力について、主に山陰地方の出土品を紹介しながら、色彩の観点で紐とんと一緒に考えてみたいと思います。

お問い合わせ先
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒466-0017 愛知県安城市南郷野分5-2-24
Tel. 0547-47-4143 Fax. 0547-47-3094
http://www.mibizen.com

お問い合わせ先
安城市民ギャラリー創作実習室
〒466-0017 愛知県安城市南郷野分5-2-24
Tel. 0547-47-4143 Fax. 0547-47-3094
http://www.mibizen.com

お問い合わせ先
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒466-0017 愛知県安城市南郷野分5-2-24
Tel. 0547-47-4143 Fax. 0547-47-3094
http://www.mibizen.com

開催告知チラシ

愛知県生涯学習推進センター協力講座

『令和7年度生涯学習あいち県民講座』の一環として、愛知県埋蔵文化財センターと愛知県生涯学習推進センターの協力講座が開催された。今年度は3回の企画でいずれも室内講座と現地学習の組み合わせである。

【1】あいちの遺跡を学ぼう「豊山町 青山神明遺跡～台地の開拓とまぼろしの古代寺院～」

①講義

令和7年6月18日(水) 午前10:00～12:00 愛知県教育会館3階教室

「遺跡にみる台地の開発と古代寺院」

講師：永井邦仁 参加者：19名

②現地学習

令和7年6月27日(金) 午後1:00～3:00 豊山町社会教育センター集合

「豊山町・青山神明遺跡に台地開発の痕をさぐる」

講師：永井邦仁 参加者：16名

【2】あいちの遺跡を学ぼう「西二葉町遺跡～江戸成瀬家屋敷跡と近代学校変遷史～」

①講義

令和7年10月10日(金) 午前10:00～12:00 愛知県教育会館3階教室

「江戸成瀬家屋敷跡と近代学校変遷史」

講師：川添和暁 参加者：20名

②現地学習

令和7年10月17日(金) 午後1:00～3:00 明和高等学校敷地内

「近現代の土地利用～武家屋敷から学校運営まで」

講師：川添和暁・柳原麻子 参加者：18名

【3】あいちの遺跡を学ぼう「豊橋市 萱野遺跡～三河の霊峰・石巻山仰ぐ遺跡群～」

①講義

令和7年12月3日(水) 午前10:00～12:00 豊橋商工会議所507会議室

「石巻山を頂く遺跡と萱野遺跡」

講師：早野浩二 参加者：17名

②現地学習

令和7年12月10日(水) 午後1:00～3:00 石巻生涯学習センター集合

「石巻山拝し東三河環状線、調査遺跡を歩く」

講師：早野浩二・小柳篤史 参加者：14名

(武部真木)

栄中日文化センター協力講座

上半期

『万葉びとの思いにのぞむ～発掘調査で見つかった情景を通して～』

日程：令和7年4月22日(火)・5月27日(火)・6月24日(火)の3回、13:00～14:30

担当：蔭山誠一

内容：「令和」になって六年、「令和」の由来である万葉集の詩を受講者と毎回数首～40首程を詠み、発掘調査でわかる古代の遺構から推定される情景や発見された出土遺物の痕跡からわかることを紹介した。

1回目は「廬(いほ)」で万葉集の中にある「貧窮問答歌」の世界から、発掘調査で見つかった水田遺構に伴う竪穴建物について解説、2回目は「黄金(こがね)」で奈良時代にあった改元とその後の物語を、『今昔物語集』の記事をヒントに読み解き、愛知県をはじめとする東海地域で見つかった金・銀・銅の加工技術を紹介した。3回目は「占(うらない)」で愛知県の朝日遺跡などで出土している占骨などを紹介し、『古事記』にある記事をヒントに古代の占いを受講者と考えた。

参加者は1回目13名、2回目13名、3回目13名であった。

(蔭山誠一)

下半期

『「イノリ」と「マツリ」の考古学 —愛知県下の古代・中世の発掘調査事例を中心として—』

日程：令和7年10月1日(水)・11月5日(水)・12月3日(水)の3回、10:30～12:00

担当：池本正明

内容：講座全体の趣旨は、古代・中世の人々が、カミ・ホトケをどのように理解していたのかを考える内容で、主に愛知県を中心として特徴的な遺構・遺物を紹介する方法を取った。

1回目(水に流そう・・・)では、律令制の主導により整備された律令的祭祀とよばれる作法を中心に紹介した。伝統的な祭祀に新たな要素を加えて再編成されたマツリのカタチで、7世紀頃に登場すると言われている。遺構・遺物からこれを捉えると、主に木製の形代に代表される祭祀具が、水辺でまとまって出土する事例が多い。これらはマツリに伴うハラエに関わる資料と考えられ、名古屋市志賀公園遺跡などの事例を中心として紹介した。

2回目(カミとホトケのマネジメント)では、主に8世紀以降の事例を中心とした。この時代は神祇信仰と仏教の習合が進む一方、民間信仰なども加わって、多様なイノリの作法が登場する時代と言われている。この時代の遺構・遺物のあり方を、『風土記』や『日本霊異記』などにヒントを求めながら、カミ・ホトケを自らの都合の良い様に差し向けようと創作された、したたかな信仰のカタチを紹介した。

3回目(多様化するマツリ 願わくばご利益を・・・)では、中世の話題も含めて、マツリと関わりが強いとされる生産活動の場面で登場する遺構・遺物に注目し、主に安城市鹿乗川流域遺跡群の墨書土器や、日進市金萩遺跡の刻書土器などを紹介した。

参加者は1回目13人、2回目13人、3回目14人であった。

(池本正明)

清須市文化財講座(協力事業)

清須市教育委員会が主催する文化財講座において、協力講座として1回行った。

日時：令和7年9月25日(木) 午前10:00から午前11時30分

場所：清須市清洲市民センター 302視聴覚室

担当と題目：田中 良「比べる！尾張と三河の戦国時代

—清洲城下町遺跡と野添遺跡(豊橋市)の比較から—

本講座では、まず、清洲城下町遺跡の最新の発掘調査成果(令和5年度・令和6年度)について触れ、令和5年度調査で出土した瓦について、上層の瓦だまりと下層の石垣から出土した瓦には、規格や紋様に違いがあることに言及した。また、石垣が意図的に壊され機能しなくなったのちも、瓦葺建物が存続していた可能性が高いことが、瓦だまりと石垣の関係から判明したことも紹介した。

次に、瓦(軒丸・軒平)の規格や紋様に違いがあることについて、過去の調査で大量の瓦が出土した後期清須城の本丸地点と比較し、その由来について迫った。その結果、軒丸瓦は瓦だまりよりも石垣に伴うものの方が、規格が大きいことが分かった。また、瓦だまりや石垣には、本丸で出土した左巻きの三つ巴紋の瓦が出土していないことも判明した。軒平瓦は、本丸では菱紋や菊紋などにバリエーションがあるのに対し、瓦だまりや石垣のものは大形(17cm)にしか用いられない紋様のみで構成されることが分かった。このことから、時期差(工人差)だけでなく、建物の規模などにも差があることが分かってきた。

そして、戦国時代の尾張と三河の違いを比べるために、土師器の内耳鍋を題材として検討した。清洲城下町遺跡を含め尾張地域では、ボール状の「半球形内耳鍋」が主流で、戦国時代前半のものには胴部に沈線が施されるのが特徴で、後半になると沈線が消え、器形が浅くなり、足が付くものが特徴的となる。さらには、「焙烙」が戦国時代後半から登場する。それに対して、豊橋市の野添遺跡では、「半球形内耳鍋」

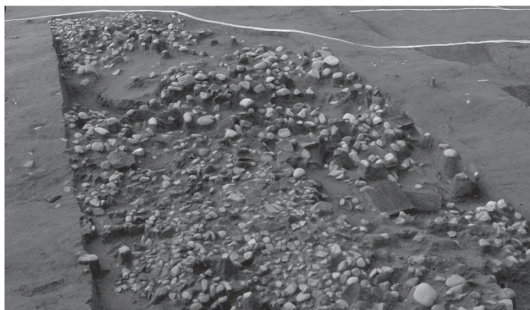
比べる！尾張と三河の戦国時代
—清洲城下町遺跡と野添遺跡(豊橋市)の比較から—

と共に、くの字形に器形が屈曲する「くの字形内耳鍋」や口縁から頸部までが垂直でそこから膨らむ「内湾形内耳鍋」が組成するのが特徴で、東三河では総じて鍋のバリエーションが豊富である。「半球形内耳鍋」の変化に関しては、尾張地域と同様に器形が深く沈線が施される→浅く沈線が消えるに変化する傾向があるが、尾張地域と比べて器厚が分厚いのが通時的な特徴である。

今後の課題として、野添遺跡では鍋のセット関係とその変遷を遺構の変遷と共に検討する必要があることと、清洲城下町遺跡の瓦については瓦だまりと石垣の瓦(軒丸・軒平)を検討し、本丸との比較検討が重要になってくることに言及した。

(田中 良)

↓清洲城下町遺跡の本丸地点 瓦出土状況



↓清洲城下町遺跡の令和5年度調査区 瓦出土状況(瓦だまり)



清須市清洲市民センター
(302 視聴覚室)
2025年9月25日(木)
愛知県埋蔵文化財センター
調査研究主事 田中 良

考古学フェア あいちの考古学2025

本事業は、ポスター展示とプレゼンテーションによる調査・研究発表会を主体とし、これに識者による講演会とシンポジウムを加えた考古学的な成果の普及を目的とした「考古学セミナー」と、考古学関連のワークショップやゲームなどによってより考古学や埋蔵文化財を身近にすることを目的とした体験型の普及活動である「考古学フェスタ」で構成されている。本事業は令和5年度より開始され、今年度は3回目となる。「考古学セミナー」と「考古学フェスタ」への参加は、県、財団法人、市町村、大学、NPO法人、民間調査機関、遺跡調査会、研究グループなどから5～7月にエントリーを受付け、内容審査を経て計29件の出展となった。

【主催】 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

【主管】 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

【開催場所】 金山南ビル（名古屋市中区金山1丁目1-1）

【内容】

1 考古学セミナー（入場料等無料）

① ポスター展示

- (1) 開催期日 令和7年11月5日（水）～11月24日（月） ※月曜（10・17日）休館
- (2) 開館時間 火～金曜日 10：00～18：00 土・日・祝日 10：00～17：00
- (3) 会場 名古屋都市センター11階 まちづくり広場
- (4) 発表者 14団体（個人も含む）
- (5) 入場者数 のべ3,109人

② 調査・研究発表会（発表資料集を無料配付）

- (1) 開催日時 令和7年11月15日（土）・16日（日）13：00～16：00
- (2) 会場 名古屋都市センター11階 ホール
- (3) 発表者 15日：6名、16日：5名
- (4) 参加者数 15日（土）：6つの発表のべ332人、16日（日）：5つの発表のべ285人

③ 講演会・シンポジウム（発表資料集を無料配付）

- (1) 開催期日 令和7年11月24日（月）13：00～16：00
- (2) 会場 名古屋都市センター11階 ホール
- (3) 参加者数 132人
- (4) タイトル 「名古屋城の御庭～下御深井御庭と二之丸庭園～」
- (5) 講演会 「絵図と発掘から名古屋城二之丸庭園を考える」
講師 丸山 宏（名城大学名誉教授）

(6) シンポジウム

関連発表 「名城公園遺跡と下御深井御庭」永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）
「文献史料からみた名古屋城下御深井御庭」堀内亮介（名古屋城調査研究センター）
「発掘調査成果からみた名古屋城二之丸」高橋圭也（名古屋城調査研究センター）
「水琴窟の音響く武家屋敷の庭園」武部真木（愛知県埋蔵文化財センター）

2 考古学フェスタ（入場料等無料、材料費は別途）

- (1) 開催期日 令和7年11月9日（日）12：00～16：00
- (2) 会場 名古屋都市センター11階 ホール、企画展示コーナー
- (3) 出展者 犬山焼ミュージアム、東海石割り会、愛知県埋蔵文化財センター
- (4) 参加者数 4つの出展のべ131人

（田中 良）

あいち埋文サポーターズクラブの活動について

令和5年度から愛知県埋蔵文化財センターの広報普及活動をサポートしていただくための組織「あいち埋文サポーターズクラブ」を実施している。今年度も年会費1,000円を納めていただき、活動内容の充実に努めた。令和7年度は3月から会員の募集を開始し、令和8年1月にて61名の方々にご登録をいただいている。

活動内容は、遺跡の現場見学会が7回、ワークショップ「石鏝づくり体験」が4回、ワークショップ「パレススタイル土器を作ろう」が4回、イベント「考古学フェスタ」への参加が1回の計16回の活動実施であった。

今年度の初めての試みであるワークショップ「石鏝づくり体験」では、縄文時代から登場する弓矢と石鏝について職員が解説し、北海道の白滝産黒曜石を使用した石鏝を押圧剥離で整形する体験だった。講師となった職員も含め、参加された会員とアットホームな雰囲気の中、意見交換を多くしながら楽しく実施することができた。

また、3年目となる「パレススタイル土器を作ろう」では、1回目にあいち朝日遺跡ミュージアムでパレススタイル土器の観察会、2回目に愛知県陶磁美術館陶芸館にて土器の製作、3回目に愛知県陶磁美術館にて土器焼成で使う焚き木採集と本館の特別展「This is SUEKI」展の見学、4回目に土器焼成を実施した。

クラブの主要な活動の一つである遺跡見学会は、現場担当者からの遺跡の解説だけでなく、より具体的な質疑応答が行われ、会員にとっては発掘調査のより深い情報に触れる機会となり、好評を得ている。

(蔭山誠一)



下延坂遺跡見学会



ワークショップ「パレススタイル土器を作ろう」
土器製作

令和7年度サポーターズクラブ参加者一覧

日付	イベント	参加人数
R7.5.30	石鏝づくり体験 AM・PM	計9名
R7.6.6	石鏝づくり体験 AM・PM	計7名
R7.6.17	下延坂遺跡見学会	4名
R7.8.1	青山神明遺跡A区見学会	10名
R7.9.12	西二葉町遺跡見学会	8名
R7.9.17	パレススタイル土器を作ろう① 土器観察会	10名
R7.11.9	考古学フェスタ	8名
R7.11.27	パレススタイル土器を作ろう② 土器製作会	10名
R7.12.17	パレススタイル土器を作ろう③ 燃料採取・愛知県陶磁美術館 特別展見学	10名
R8.1.27	パレススタイル土器を作ろう④ 土器焼成編	9名
R8.2.12	青山神明遺跡P区見学会	8名
R8.2.17	サポーターズクラブ活動の振り返りの会	10名
R8.2.26	萱野遺跡見学会	6名
R8.2.27	内山遺跡見学会	5名
		のべ114名